



桐生が岡動物園

市街地に近い吾妻山のふもと、自然の丘陵を巧みに利用した桐生が岡公園の中に、桐生が岡遊園地と隣り合わせで設けられている。園内にはサクラやツツジなどの樹木が多く、花の名所としても有名である。市外や県外から訪れる人も多く、年中無休、入園無料の施設として広く親しまれ、行楽シーズンの休日ともなると1日に3千人近くの来園者がある。

明治中期から個人の庭園として西宮神社方面から開発、整備が始まり、森宗作、本田七九郎、書上文左衛門、原勢九助らがサクラを植えた。大正5年に当時の桐生町に敷地が寄付され、私立公園から町立公園となり「桐生ヶ岡公園」と命名された。同10年には公園内で市制施行記念式典が行われ、2千人もの人々が集まり市制施行を祝った。この頃から動物園としての整備も進み、昭和28年4月1日「桐生ヶ岡公園動物園」として日本動物園水族館協会へ加盟し、正式に動物園として開園した。同33年には市内で2番目に街頭テレビが女神像前広場に設置され、当時から多くの市民に親しまれていた。

平成4年4月には、現在の「桐生が岡動物園」に名前を変更し、同20年4月に開園55周年を迎えた。記念事業として新たに設置されたクモザル舎は、間近に動物が観察できる行動展示で大きな人気を集めている。現在では、105種740点が飼育されている。

桐生市民であれば誰もが一度は訪れたことがある、憩いと和みの風景である。



所在地 桐生市宮本町3-8-13
園長 小暮 和男